

ECHONET Lite海外展開に向けた検討状況について

「ECHONET Interest Working for IOT and internationalization」を開催し、
「ASEAN諸国へのECHONET Lite普及に向けた戦略」をテーマに討議を実施

「ECHONET Interest Working for IOT and internationalization」の検討概要

※第8回スマートハウスビル標準事業促進検討会資料より抜粋

ECHONET LiteのASEAN諸国への展開について、現地有識者、エコーネットコンソーシアムメンバー等と共に討議を行い、参加者からは以下①～⑦のような指摘を受けた。

- ① ターゲットは高所得層
- ② 流通経路の確保・パッケージ化商品の投入が必要
- ③ 教育・トレーニング環境が必要
- ④ 個別機器へのIPv6の割り当てが必要
- ⑤ エコーネットコンソーシアムの拠点拡大
- ⑥ 現地政府等に対するプロモーションとコンサルティング
- ⑦ 欧米との連携の検討

⇒こちらの検討内容を踏まえて、エコーネット海外戦略を検討

<基本方針>

ECHONET Liteは、IEC規格として完全国際標準化を達成した。排他されることは無いと言うこの地位を活用して、ECHONET Liteの採用が、システムアーキテクチャを閉鎖的にすることは無い、何かの機能を排他的に求めることは無い、と言う情報発信を強化して行う。

欧米向け渉外方針

欧州(エコデザイン指等)、米国(W3CやOIC等)は、エネマネ、IOTに関する技術仕様作成が活発であり、各機関へ等距離で情報発信を行い、ECHONET Liteが排他されないようにする

アジア向け渉外方針

アジアについては、日、韓、台、越、馬、泰の6か国のトップ学術機関、業界団体等がエコーネット海外会員として加盟するまでになった。また、台湾企業提案のエコーネットクラスが誕生する。今後は、以下の活動を強化する

- A) 海外会員拡大を目的とした各国での支部設立(エコーネットタイ、エコーネットマレーシアなど)具体的検討作業に着手する
- B) ECHONET Liteを用いたサービス開発を出来るエンジニア不足と言う状況改善を目的とした、エンジニア教育プログラムの具体的検討作業に着手する